



【めざす生徒像】

- 『友愛』 他人に思いやりを持ち、ともに高め合う生徒 【社会の創り手となる生徒の育成】
- 『礼節』 礼儀と節度を守る生徒 【他者を価値のある存在として尊重できる生徒の育成】
- 『協力』 力を合わせ、よい校風をつくる生徒 【多様な人々と協働できる生徒の育成】

【学校教育目標】

生徒一人一人が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り開く力を育み、社会の作り手となる生徒を育成する。

2026(令和8)年の立春は2月4日です。この日は暦の上で冬から春に移る日とされています。とはいえ、まだまだ冷え込みの厳しい日が続いております。体調管理には十分にお気を付けください。また、保護者ならびに地域の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動へのご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

2月は今年度の締めくくりと同時に、次年度への準備を進める大切な月です。この2月にゆかりの深い偉人を紹介します。世界的な冒険家として知られる植村直己さんです。今から42年前の1984年2月12日、彼は世界で初めて厳冬のマッキンリー単独登頂に成功し、翌13日の交信を最後に消息を絶ちました。彼の誕生日もまた2月11日です。彼の歩みは、現代を生きる私たち、そして未来を担う生徒たちに大切な教訓を遺してくれています。

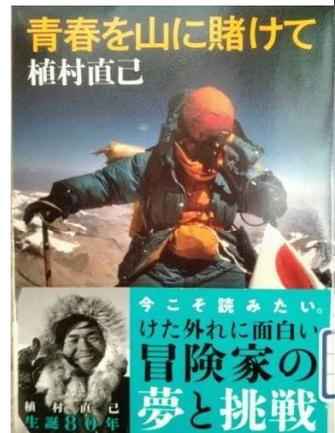
兵庫県出身の植村直己さんは、日本人として初めて世界最高峰のエベレストに登り、世界で初めて五大大陸すべての最高峰を制覇するという偉大な記録を打ち立てました。

そんな植村さんですが、実は大学で山登りを始めた頃は、仲間の中で一番歩くのが遅く「どん尻(最後尾)」と呼ばれていました。しかし、彼は決して諦めませんでした。「自分は人より不器用だから」と、誰よりも重い荷物を背負って歩く練習を何度も何度も繰り返したのです。その地道な努力の積み重ねが、後に北極点への単独到達や、北米最高峰マッキンリーへの挑戦へとつながりました。植村さんは、次のような言葉を残しています。

「みんな、それぞれが、何か新しいことをやる。それはすべて冒険だと、僕は思うんです」

冒険とは、極地へ行くことや高い山に登ることだけを指すものではありません。昨日まで知らなかったことを知る、できなかったことを明日できるように頑張る、勇気を出して友達に声をかける。日常の中にある小さな一歩、そのすべてが立派な「冒険」なのだと言います。植村さんは教えてくれています。

時代が変わっても、彼の「あきらめない心」という灯火は消えることはありません。生徒たちが自分なりの「冒険」を楽しみ、一歩ずつ成長していけるよう、学校と家庭で温かく見守っていきたいと思います。



本校図書室にある
植村直己さんの著書

木津川市シェイクアウト訓練 阪神・淡路大震災から31年が経ちました

1月16日(金)に阪神淡路大震災の発生日に合わせて本校においても「シェイクアウト訓練」を実施しました。地震発生を想定した緊急放送により、その場で直ちに「ドロップ(姿勢を低く)」「カバー(頭・体を守る)」「ホールドオン(揺れが収まるまでじっとする)」という3つの安全行動(シェイクアウト行動)を実践しました。災害発生時の原則は「自分の命は自分で守る」です。災害はいつ・どこで発生するかわかりません。「想定外を想定内にするための備え」が重要です。



保護者対象講演会 佛教大学教育学部 原清治教授を迎えて

1月26日(月)授業参観後に、「ポストコロナを生きる中学生の本音」一保護者はどう寄り添えばいいのか?—をテーマとして佛教大学教育学部教授原清治様にご講演をいただきました。教育社会学の知見に基づき、たくさんのユーモアを交えてながら楽しい語りでお話をしてくださいました。そして、子育てについて熱いメッセージを頂きました。講演会後には、個別の質問にも丁寧にお答えいただきました。ご参加していただきました保護者ならびに地域の皆様、ありがとうございました。

